

短歌 (投稿順)

ポケットに卒寿記念の万歩計背山の鶯囀すかに鳴く
 春霞霧か花粉か埃か塵か空気汚し春の訪れ
 今夜また大きな声で言ってやるその王様裸じゃないか
 鬱々と心の晴れぬ寒き日に見目愛らしきスイセンの花
 大学と大学院終え社会人男孫巣立ちて秩父出て行く
 政治家の使命いづこに消え去りて被災地救済一刻も早く
 この町の舵取り託す一票よ未来見据えて記載所に立つ
 三人のはらから黄泉より会いに来て嬉しき夢の覚めて儚し
 更新の運転免許を頂きて嬉しくもあり春の好日
 植えつけたばかりの葱にたつぷりと恵みの雨よ確と根づく
 春の町民弓道大会母の作りし銀無地和服で半世紀
 春嵐明けの新宿帰還後のテントに残る能登の雨拭く
 赤十字奉仕員安否気づかう寒き日に春引き連れてなごむ会話よ
 首都直下百年ごとに大地震備えておこう防災グッズ
 城跡を見事に飾る桜かな心に有るは旅の思い出
 嫌なもの面倒なこと決りごと心の澱を吐き出す休暇

三沢 眞下 杏子
 皆野 大澤 貴夫
 皆野 石原 達也
 皆野 萩原 初恵
 下田野 新井 節子
 皆野 根岸 詩子
 皆野 引間 万亀
 下田野 浅見 豊子
 三沢 新井 民子
 三沢 新井 叶子
 皆野 戸塚喜久雄
 皆野 打木 昭廣
 国神 藤原マキ子
 上田野 四方田利男
 皆野 村田ハツ代
 皆野 太幡琉美花

俳句 榎本順江 選 投稿数 16 句

落語家の芸にほろりと春の宵
 (評)寄席の落語、前座から真打ちまでの熱演が憂き晴らしをしてくれま。芸にほろり、から演目は人情斬と想います。人情斬を演ずるのは真打ちとのこと。登場人物の動作や表情に引き込まれます。爆笑やほろりの混ざった熱演に作者は満ち足りた春の宵を過ごせたことでしょう。二句目、親しんだ校舎、友人や先生との別れ、感謝と寂しさの混ざった卒業。涙がこぼれそうでも言えず、振り向いてやっと言えた「じゃあ」の一言に万感の思いが詰まっています。きつと良き進路が待っていると思えます。三句目、冬のうちは木々の間に見えていた家、春の訪れで木の芽が膨らみ日ごとに家を隠していきま。たたずまいが万緑に埋もれてしまうのも間近です。町の音を遠くに聞きながら良い場所にお住まいの作者です。

振り返り学び舎に「じゃあ」と卒業子
 皆野 鳥 弘
 古寺に木霊秘むごと糸桜
 三沢 新井 民子

山背負う我が家木の芽に囲まれて
 皆野 戸塚喜久雄
 朗読に心洗わる「翁草」
 皆野 萩原 初恵

峡の里抱きて霞む武甲の秀
 皆野 根岸 詩子
 清明や祖父の忌日の庭景色
 皆野 太幡琉美花

凍て緩む一步一步を確と踏む
 三沢 新井 叶子
 古き巢に燕早々到来す
 皆野 村田ハツ代

露の臺摘む歓声や子等集い
 三沢 眞下 杏子
 山峡を歩む道影夏近し
 国神 藤原マキ子

「広報みなの」有料広告募集

